

団体スポーツ競技におけるチーム分割と集団凝集性および自己肯定感についての研究—チーム体制に着目して—

スポーツ経営組織学ゼミナール 1316063 三上 彩華

1. 研究動機・研究目的

本研究の動機は、学生監督のチーム作りに携わった際のチームの活性化を図るための要素を探る中で読んだ論文がきっかけである。自身の所属するチームで競技成績を重視しつつもメンバー全員が組織に満足し、逸脱しないことを目標にしていた。しかし、部員数が年々増加し、それに伴い全員の試合出場機会が均等でない状態が避けられなくなってしまった。その環境で、個々がチームに対して感じる魅力を向上させることに力を入れたく集団凝集性に興味を抱き、阿江美恵子（1985）の「集団凝集性と集団志向の関係、および集団凝集性の試合成績の効果」を拝読した。阿江は、研究結果として集団凝集性と集団志向には関連が見られ、レクリエーション志向は対人魅力凝集が大きく、競技志向は、対人魅力凝集が小さく、所属・課題凝集が大きいとの凝集傾向を示している。さらに、所属・課題凝集については、試合成績に正の関係を示している。この論文の拝読をきっかけに、集団凝集性への興味が生まれた。また、大学の団体競技において多くの部員数を抱えるチームで練習や合宿においてチームをわけて活動するチームを多く目にし、自身の所属チームの体制について試行錯誤をおこなう際に、チーム分けの有効性についても研究したいと考えた。

本研究では団体スポーツ競技部所属部員における集団凝集性と自尊感情について、集団凝集性尺度と自尊感情尺度を用いてその関連を明らかにすること、また、そこにチーム分割の関連があるのか否かについて明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

J大学に在学している大学1年生から4年生275名（男性149名、女性125名）を調査対象とし、質問紙調査を行った。本研究では、質問紙調査法として、集団環境尺度と自尊感情尺度の項目を使用した。集団環境尺度（GEQ）は、「社会的側面に対する個人的魅力」「課題側面に対する個人的魅力」「課題的側面に対する集団の一体感」「社会的側面に対する集団の一体感」の4つの下位尺度18項目から構成される。今回は、内田ほか（2014）の作成した日本版GEQを使用した。回答方法は、9件法を用いた。自尊感情尺度については、5件法を用いた。本調査において得られたデータは、統計解析ソフトSPSSを使用し、分析を行った。

3. 主な結果と考察

相関分析の結果より、集団凝集性と自尊感情の間には、有意な正の相関が認められた。「社会的側面に対する個人的魅力」と「自尊感情」の関連性については、チームのメンバーに対し、個人的に魅力を感じられる人は、友人関係を構築する能力を有しており、自尊感情も高いことがわかった。「課題的側面に対する個人的魅力」と「自尊感情」の関連性については、課題遂行において自身の目標を重視しながらチーム内で関係性を構築することが可能な人

は、深い友人関係を築くことができるため、自尊感情も高くなる。「課題的側面に対する集団の一体感」と「自尊感情」の関連性については、課題遂行に対し、遠慮なく意見し合える環境に属している者は、深い友人関係を構築することができ、「自尊感情」も高いことが明らかとなった。「社会的側面に対する集団の一体感」と「自尊感情」の関連性については、正の相関関係を示した。つまり、社会的側面においても課題的側面においても個人の感じとるチームの魅力や一体感が高いと個人の自己肯定感も高いということがわかった。

t 検定の結果より、チーム分割をして練習をすることは、「社会的側面に対する集団の一体感」「自尊感情」関連性を持つことが認められ、分割を行うことで、個人間のコミュニケーションが図りやすくなり、正の影響を与えることが明らかとなった。

次に、チーム分割をして合宿を行うことにより、「効果的コミュニケーション」が生まれ、集団凝集性に正の影響を与えることが明らかとなった。また、合宿分割と「社会的側面に対する集団の一体感」について、「親密さ」を深めることが可能であると考えられる結果となった。さらに、合宿分割と「自尊感情」との関連について、小集団での活動により、われわれ意識が生まれ、互いに親密な付き合いをすることにより、自尊心が高まると考えられる。

最後に、チーム分割をしてエントリーを行う大会の有無については、「社会的側面に対する集団の一体感」「自尊感情」に影響を及ぼすことが明らかとなった。試合における役割が増えることにより集団の一体感に影響が及び、集団凝集性が高まることが明らかとなった。

4. 結論

本研究にて、大別して以下4点が明らかとなった。

- 1) 集団凝集性と自尊感情との間には正の相関が見られ、集団凝集性の各下位尺度と自尊感情の間においてそれぞれに関連性を持つ。
- 2) 団体スポーツ競技においてチーム分割をして練習をすることは、「社会的側面に対する集団の一体感」「自尊感情」に関連性を持つ。
- 3) 団体スポーツ競技においてチーム分割をして合宿を行うことは、「社会的側面に対する個人的魅力」「社会的側面に対する集団の一体感」「自尊感情」に関連性を持つ。
- 4) 団体スポーツ競技においてチーム分割をしてそれぞれでエントリーを行う大会の有無は、「社会的側面に対する集団の一体感」「自尊感情」に関連性を持つ。

5. 卒業論文の執筆を終えて

本論分の執筆にあたり、多くの皆様のご指導ならびにご支援を賜りましたことを心より感謝申し上げます。

指導教官である水野基樹先生には、本研究に関して大学4年次4月の卒論中間発表時より、本日まで大変親切かつ細やかなるご指導ご指摘を賜りました。深甚なる感謝の意を表します。

最後に、本研究を行うにあたり、アンケート調査に数多くの方々にご協力をいただきました。調査対象の選手の皆様、お忙しい中対応してくださいました部長の先生方や監督の先生方、練習前後に時間を汲んでくださったマネージャーや主務の皆様にはさらに感謝申し上げます。お忙しい皆様のご協力あってこそ完成した本論文であります。皆様に心より御礼申し上げます。